

「忘れまじ大震災 歴史は繰り返している」

・ ・ ・ 羹に懲りて膾を吹こう

私達の故郷、三陸はたびたび大きな三陸沖海底を震源とする地震による大津波に襲われている。しかし、被害の大きさにしては数年、数十年後には震災地に家が建ち漁業を生業として生活が始まっている。悲劇の歴史は何度となく繰り返している。「今回の三・一一大震災からの記憶が薄れている。」とはよく報道にのぼる。しかし東日本大震災の津波の高さと被害の甚大さからいえば「絶対に忘れてはいけない。」の一言である。でも「宮城県沖地震・津波は近年内に九十九%起こりえる」と言われながら、あの大災害を三陸地域にもたらした明治三陸大津波、昭和大海嘯は、報道にはあまり取り上げられていなかったのではないか。思えば、終戦直前（昭和十九年・一九四四

年）の東南海地震津波、チリ地震津波、十勝沖地震津波、新潟地震、日本海中部地震・津波、北海道奥尻津波、阪神淡路大震災、中越地震などの多くの死傷者と被害の教訓から、今回の被害は防げなかったのだろうか。

一八九六年	明治二十九年六月十五日	明治三陸大地震	死者二万一千九百十五名
一九二三年	大正十二年九月一日	関東大震災	死者行方不明約十四万名
一九三三年	昭和八年三月三日	昭和三陸地震	死者行方不明三千六十四名
一九四四年	昭和十九年十二月七日	東南海地震	死者行方不明千二百二十三名
一九六四年	昭和三十九年六月十六日	新潟地震	死者二十六名
一九六八年	昭和四十三年五月十六日	十勝沖地震	死者百名
一九八三年	昭和五十八年五月二十六日	日本海中部地震	死者百四名
一九九三年	平成五年七月十二日	北海道南西沖地震	死者行方不明二百三十名
一九九五年	平成七年一月十九日	阪神淡路大震災	死者行方不明六千四百三十七名
二〇〇七年	平成十九年七月十六日	新潟県中越沖地震	死者十五名
二〇一一年	平成二十三年三月十一日	東日本大震災	死者行方不明二万八千五百五十四名

「羨あつものに懲りて、膾なますを吹く」とは軽蔑語だが、こと地震と津波に関しては教訓語だろうと信じる。終戦以降の震災についてはたくさんの記録があり、またチリ地震津波以外は三陸とは直接的に結びつかないので、ここでは明治三陸地震津波、昭和大海嘯について気仙沼地方に関して示し考察し「膾を吹く」材料としたい。

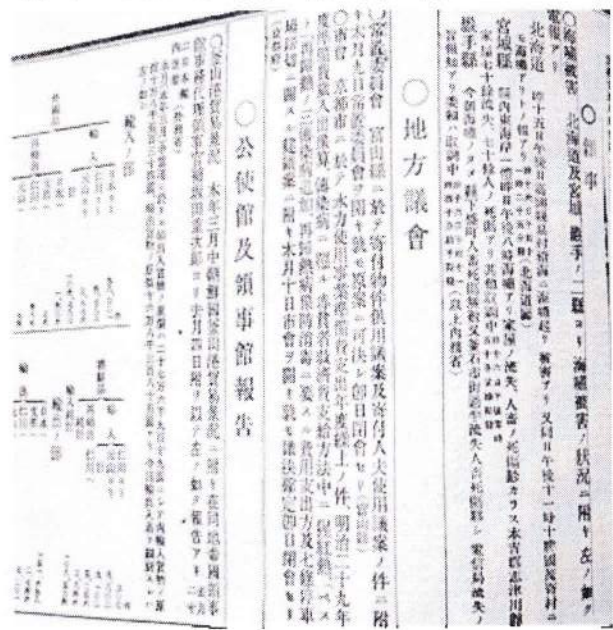
一 明治三陸大津波

明治二十九年（一八九六年）六月十五日、午後七時三十二分頃の発生の釜石沖二百キロを震源とする三陸沖地震。津波の第一波は同午後八時七分に記録されている。約三十分後の津波到来である。震源が今回の東日本大震災（以下、「今回の震災」とする）と比べると二百キロ程度北北東を震源としている。そのために被害は三陸の地はどこも甚大な被害であったが、特に岩手県が最大



▲明治三陸大津波の被災絵▲

の被害と津波襲来を受けている。しかし岩手県境の気仙沼地方にも大きな犠牲と被害をもたらした。明治新政府となり三十年弱、日清戦争勝利の翌年であり明治文化は絢爛たるものをみせてはいるが地震、津波の科学的な研究は現在と比較すれば稚拙であった。しかし、明治政府により克明な記録が「官報」という形で残っている。官報は明治十六年、参議・山県有朋の建議で発行された当時政府の公報、公告であった。その官報に初めて明治三陸大津波（以下、「明治大津波」）が掲載されたのが官報三八八九号・明治二十九年六月十七日付けである。当時は電報を用いての通信手段であったが発生二日後には掲載されていることに明治政府のスピード感と役人の職



▲明治三陸大津波の官報一部掲載▲

務への緊張感を感じる。今回の震災においては百年以上を経過しているのに、発生直後の情報の混乱と政府対応の遅滞は言葉で表現しがたい。では、宮城県の被害を見ると六月二十日付官報三八九二号では死者三二〇三人、(岩手県；一四〇〇〇人)負傷者五五五人、流失及破壊家屋九七三とある。宮城県の被害としては死者のみ見ると今回の震災の四分の一ということだ。逆に言うとうと、いかに今回の震災が大きいかがわかる。では気仙沼地方の被害はと見ると、官報三八九〇号には現階上、大谷、歌津あわせて死傷者一〇三〇人とある。死傷者だから負傷者も含むが現在の気仙沼市域と南三陸町域の一部ではあるが、死者はかなりの人数に及んだものと言えよう。その他の被害も言うに及ばない。

このような甚大な被害の原因として、①三陸沿岸の人たちにとって当時、地震イコール津波の認識が低かったこと。②六月十五日という旧暦の端午の節句で夕刻過ぎ七時半過ぎには地方のならいとして家族して振る舞いして酒も入り一家団欒のんびりとしていた時分であったこと。③最大震度四であり危機を感じる人は少なかった。しかもラジオ、テレビの報道もなく、科

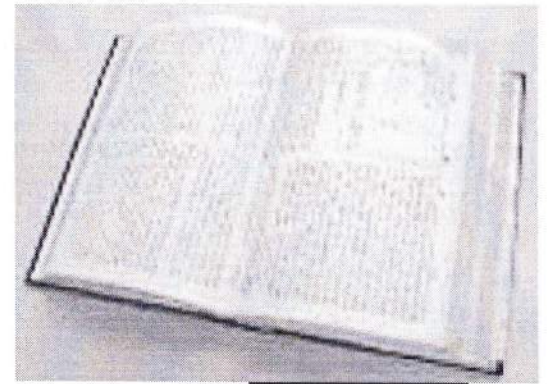
学的な地震、津波の一般認識も全くといっていいほどない年代であった。④そのようなことを受けて、マグニチュード八・二から八・五の大地殻変動での大津波が押し寄せた。ことがあげられよう。

二 昭和大海嘯(昭和三陸大津波)

昭和八年(一九三三年)三月三日、午前二時三十分頃発生。震源は明治二十九年(一八九六年)六月十五日発生の明治三陸大津波のやや東北東であり三陸沿岸からは明治のよりも離れていた。現代の科学的知見によってこの地震は明治二十九年の地震の震源の外側で発生したアウターライズと言われるものであった。そのことは明治大津波三十七年後の政府、民衆でも認識できなかったことである。さらに深夜の二時半という時刻は多くの人々にとってはまさに「寝込みを襲う」という非情なものであった。これらの実に詳細で膨大な被害状況や震災後の行政、全国民の支援については、明治の「官報のみ

の公式記録」とは違って「宮城県昭和海嘯誌」として製本されて残されている。当気仙沼地域でいうと、津谷小学校、小原木小学校に現存している。誌の現存と昭和大海嘯後の教育復興、学童の心の支援についての状況を平成二十五年五月の気仙沼市立学校長会、教頭会、教務主任会において白幡勝美教育長から講話あったことは記すべきことだ。

さて、被害の現状だが、当時三陸の民衆にとつて三十七年前の大被害はきつと親から子へ子から孫へと語り継がれ、注意喚起のため「地震があつたら津波と思え」などの石碑の建立など進んでいたものと思う。しかし、震度五の地震ではあつたが深夜の津波ということで電気、電灯がそれほど普及していない三陸の漁村では、混乱に混乱を重ねたことは間違いない。また、三月三日という時期では東北はまだまだ寒く氷も張るし雪も降る。そのことがさらに人々の動きを



▲昭和海嘯誌▲

鈍くしたものと思う。今回の震災の三月十一日もそうであつた。死者は被災三県（青森、岩手、宮城）で一五二二人、行方不明は一五四二人とあわせても明治大津波よりも人的被害は少ない。しかし少ないというのは客観的に言えるのであつて死者を出した家族親族にとっては三千人にまつわるそれぞれの悲嘆とその後の不安と惨苦がまちがいなくあつた。教訓は生かされてこそ「教訓」である。明治大津波からの教訓は昭和大海嘯（以下、昭和大海嘯とする。）に生かされていたのであるか。それは今後多くの学者や担当行政が解き明かすだろうが、今回の震災から思えば、教訓は十分に生かされることが少ない、と言えまいか。気仙沼当地方の被害については前述のように明治大津波と比較すると

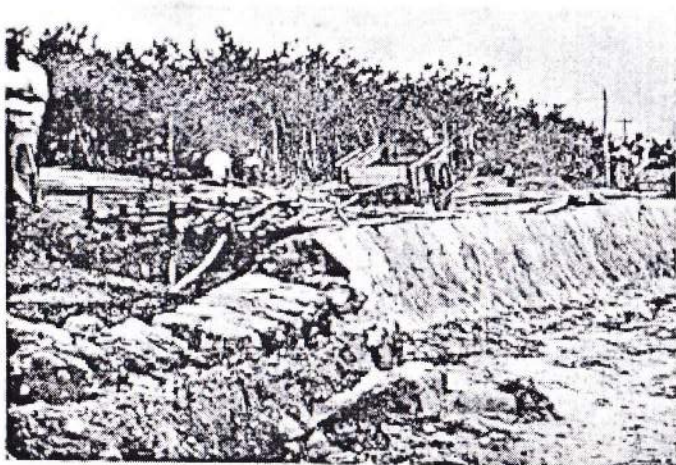


写真48. 宮城県気仙沼市階上字波路上
石積護岸の欠壊，この背後は林帯が消滅している。

少ない。当時の宮城県保安課の調査（三月八日まで）によると**唐桑村**死者三名、不明二七名、計五八名。**鹿折村**死者四名。**階上村**死者一名。**小泉村**死者九名、不明六名、計十五名とある。別の件で今年四月に訪れた小野寺憲雄氏から「たまたま、母親が実家の大島にいて、母親が親戚から向かいの尾崎はこの津波では何事もなかったように見えた」と伝え聞いてほっとしたそうだ。」とお聞きした。かくも気仙沼湾内は鹿折地区の犠牲者のみであったようだ。ただ津波は当地方をまちがいに襲ったのであって唐桑半島、気仙沼南域の家屋流失や全壊、船の流失は相当であった。現在の気仙沼市域でみると家屋被害、物損、流失は

唐桑村

家屋全壊一二六棟、流失二四〇棟、浸水三三四棟、発動機船流失四七艘、

小舟流失一八艘、家具其の他（七一、二七一円） 合計二七七、八五七円

鹿折村

家屋全壊二棟、流失四棟、浸水四棟、家財其の他（一、三七〇円） 合計

三、九〇〇円

大島村

家屋全壊二棟、全壊一棟、流失四棟、浸水二一棟、発動機船流失二艘、

小舟流失七艘家、具其の他（五、二五〇円） 合計一六、三七〇円

階上村

家屋全壊六棟、全壊一棟、発動機船流失一艘、小舟流失一〇〇艘、家財

其の他（一、二三〇円）合計四六三三五円

松岩村

小舟流失七艘、合計一四七円

今回の震災におけるこの面瀬地区の犠牲者は六十名と言われている。面瀬は明治以来今までの大津波では大きな被害はなかった。物的被害は空前絶後であり、明治の大津波、昭和大海嘯を遙かに超えている。江戸期より続いた尾崎地区は壊滅して、現在では居住地としての計画はなく緑地公園などの計画がある。

小泉村

家屋半壊十二棟、流失五六棟、小舟流失七艘、家財其の他（二三、七一

八円） 合計四二、〇〇〇円

御岳村

家屋全壊一棟、小舟流失三三艘、家財其の他（〇五〇円）合計二〇七二円

となっている。

昭和大海嘯の被害が明治大津波より少ないのはその地震の規模と震源位置によるものであり、深夜におこったものであるが「不幸中の幸い」と言える。少ないと言っても宮城県では少ないのであって、岩手県は再び大きな被害を